

家畜衛生情報

660号 東部地域畜産経営技術推進指導協議会
富山県東部家畜保健衛生所

西部地域畜産経営技術推進指導協議会
富山県西部家畜保健衛生所

2024.5.10

くろべ牧場まきばの風で放牧が
始まりました..... 1
早めの暑熱対策を心掛けましょう 2
「とやまの畜産暑熱対策支援事業」
補助金のご案内..... 3
アフリカ豚熱の発生状況
～釜山広域市（日本から約50km）で
相次いで陽性野生イノシシ確認～ 3

高病原性鳥インフルエンザの発生状況... 4
【海外情報】乳牛に鳥インフルエンザ
が感染!? 4
令和6年度市町村畜産担当者名簿 5
防疫情報..... 6
北陸三県和牛子牛市場の開催 6

くろべ牧場まきばの風で放牧が始まりました



令和6年4月13日(土)、くろべ牧場まきばの風で放牧ふれあいデーが開催され、今シーズンの牛の放牧が始まりました。好天の下、寒い冬の間放牧を待ちわびていた牛たちは、柵を開放すると同時に颯爽と放牧地へ駆け出していきました。牧場を訪れた観光客からは「大きい」「飛び跳ねてる」などの歓声が上がっていました。牛のほかには山羊や羊、ポニーも放牧されており、近くでふれあうことができます。普段から家畜を目にする機会も少なくなってきた昨今ですが、くろべ牧場では10時頃から14時頃まで放牧地でのんびり過ごす牛を見ることができます。

(東部家保環境課 宮本課長)

早めの暑熱対策を心掛けましょう

年々春と秋が短くなり、夏が終わると冬に、冬が終わるとすぐに夏になってしまうように感じます。昨年度は記録的な猛暑で牛の死傷事故が多発しましたが、今年も全国的に猛暑となる可能性があるといわれています。本格的な夏を迎える前に、暑さから家畜を守るポイントについて説明します。

【牛】

牛は寒さに強い一方で暑さには弱い動物です。牛が快適と感じるのは10 程度で、気温が20 を超えるとストレスを感じ始めるといわれています。気温が上昇すると「餌を食べなくなる」「乳量、増体量が低下する」「起立時間が長くなり足に負担がかかる」「繁殖成績が低下する」ことから、以下のような暑熱対策が必要となります。

送風

風を直接体に当て気化熱によって体温を下げます。体感温度は以下の式で計算されます。

【体感温度 () = 気温 () - 6 × 風速 (m / 秒)】

つまり、風速が1 m / 秒では6 、2 m / 秒なら約8.5 体感温度が低下します。

気化熱の利用

細霧装置から出る霧の気化熱で牛の体温を下げます。留意点としては、湿度が上がると逆に蒸し暑くなってしまうため、霧をいかに素早く蒸発させるかが重要です。送風機等を併用すると霧の蒸発が早くなり、換気により湿度も低く維持できて効果的です。また、街中でも見かけるドライミストは、水の粒子が16 μm と小さく空中で素早く蒸発するため、牛舎を濡らすことなく畜舎内の気温を下げるすることができます。

畜舎内の温度を下げる

畜舎壁へのグリーンカーテンや遮光ネットの設置、畜舎屋根への石灰塗布や散水により畜舎内の温度を下げます。

牛の体温を下げる

緊急時には濡れた毛布を牛にかけたり、ペットボトルで凍らせた氷を直腸に入れることで直接牛の体温を下げられます。

以上の対策を有効に活用して夏の暑さに備え、早めの対応で今年の夏を乗り切りましょう。



(東部家保防疫課 宮澤副主幹)

【豚】

豚は汗腺が退化し夏の暑さに弱いため、発育に応じた適正な温度と湿度に保つように豚舎環境の整備が重要です。豚は汗の代わりに息をきらして体温を下げようと、大量の水分が失われます。その際、飲水量が不足すると脱水状態となり、特に母豚では泌乳停止などにより哺乳子豚へも大きく影響します。給水器の取り付け位置や流量 (特に分娩舎では2 L / 分以上 = 500m L のボトルを15 秒で満たす流量) を改めて確認し、豚が十分に水分を摂取できるようにしてください。また豚に給与している水は人も飲める水でしょうか? 給与している水質も確認してみましょう。豚を大きくするのは、水と空気と環境といわれています。今一度、飼養環境を点検し、この先の暑さに備えましょう。

(東部家保防疫課 先名係長)

【鶏】

鶏には環境の温度によって発汗量を調整する汗腺がありません。そのため体の構造上熱を逃がしにくく、熱を体外に放出するための手段として呼吸を早め、口から熱を逃がすパンティングを行います。パンティングが促進されると血液中から重炭酸イオンが二酸化炭素として過剰に排出されることで血液中の酸塩基平衡に異常が起こり、産卵成績の低下、卵殻質の悪化を招きます。対策として、失われた重炭酸イオンの補給を目的とした炭酸水素ナトリウム (重曹) の飲水もしくは飼料への添加 (0.1~0.3%の割合) があります。また、飲水は新鮮で冷たい水が十分に飲めるようにしましょう。日中の暑い時間帯を避け早朝や夕方に給餌することで暑熱ストレスによる飼料摂取量の減少を補う方法もあります。鶏舎内の暑熱対策としてこまめに糞掃を行い、発酵熱を減らすことも有効です。暑さによる影響を最小限に抑えるために夏本番に向けて準備をお願いします。

(東部家保防疫課 古林獣医師)

「とやまの畜産暑熱対策支援事業」補助金のご案内

暑熱による畜産物生産量の低下を防ぎ、県畜産物の安定供給と畜産経営体の収益性を確保するため、家畜への暑熱ストレスを軽減するための施設改修や機械設備の導入を支援します。

- 事業実施主体（支援の対象となる方）
県内で畜産を営む経営体（酪農、肉牛、養豚、養鶏）
- 補助対象事業
家畜の暑熱ストレス低減のための施設改修や機械導入支援
(1) 畜舎の断熱性向上に必要な改修（遮熱塗料の塗布、断熱材の設置等）
(2) 畜舎内温度を下げる機械設備の導入（細霧装置、換気扇等の新規導入、増設等）
- 補助率、補助金の上限額、補助件数
補助率：1 / 3以内 補助金の上限額：70万円 補助件数：4件程度（予算額：280万円）
- 事業実施計画書提出先：富山県農林水産部農業技術課 畜産振興係
- 受付期間：令和6年4月22日(月)から5月21日(火)まで
事業実施計画書の作成にあたっては、広域普及指導センターの担当者に必ずご相談ください。
要望多数の場合は、補助金の減額等により対応する場合があります。
- お問い合わせ先
富山県農業技術課畜産振興係 TEL 076-444-3288、広域普及指導センター TEL 076-429-5043
(農業技術課 清水副主幹)



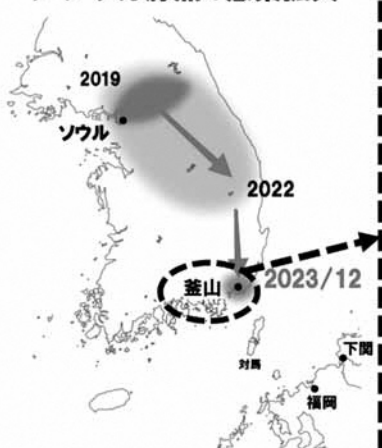
アフリカ豚熱の発生状況

～釜山広域市(日本から約50km)で相次いで陽性野生イノシシ確認～

これまでも農場巡回時やFAXなどで注意喚起していますが、韓国の釜山広域市において野生イノシシから昨年12月に初めてアフリカ豚熱（ASF）陽性が確認されました。今年1月以降、日本へ向かうフェリー乗り場の裏山で相次いでASF陽性イノシシが確認されており、4月22日までに釜山広域市で25例、韓国全体では、2019年の初確認以降、4,009例のASF陽性イノシシが確認されています。

また、農林水産省動物検疫所によると、2024年3月末までに、海外からの旅客の手荷物から158例、国際郵便物から29例のASF遺伝子検出事例が確認されています。2024年3月には訪日外国人旅行者が300万人を超え、ひと月あたり過去最大を記録しており、日本国内への病原体の侵入が危惧されます。

朝鮮半島におけるアフリカ豚熱の感染拡大



農場への病原体侵入を予防するため、特に、野生動物の侵入防止（野生動物や野鳥が近づかない様に、草刈りなど農場周辺の環境を整備する）、人や物、車両の消毒の徹底、農場、畜舎専用の衣服・長靴への更衣・履き替えの徹底をお願いします。

外国人従業員が働く農場では、日本への持ち込みが禁止されている肉製品等のもとより、農場で使用する作業服や器具等が海外から持ち込まれることが無いよう、改めて周知徹底をお願いします。

(東部家保防疫課 先名係長)

高病原性鳥インフルエンザの発生状況

令和6年4月29日に今シーズン11例目となる高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）が千葉県の採卵鶏農場で発生しました。

令和5年11月25日に佐賀県で今シーズン初となるHPAIの発生が確認されて以降、家きんで10県11農場での発生が確認されており、疫学関連農場を含む13農場で約85.6万羽の鶏等が殺処分対象となっています（4月30日現在）。これまでは数年おきにHPAIの発生が確認されてきましたが、令和2年度から今シーズンまで4シーズン続けて全国的なHPAIの発生となりました。今シーズンは、家きんでの初発事例は過去シーズンと比較して遅かったこと、50万羽を超える大規模農場での発生は確認されていないこと（最大36万羽）、血清型は9事例からH5N1、1事例から韓国で流行しているH5N6が検出され複数のタイプが国内に侵入している（11例目は検査中）、という特徴がみられます。

また、野鳥におけるHPAI発生は28都道府県154事例、飼養鳥では2県2事例（4月30日現在）が確認されています。野鳥におけるHPAIの検出は、昨シーズンに引き続きカラスといった渡りをしない留鳥から相次いで確認されています。

○発生農場数及び羽数（疫学関連農場を含む）

	農場数	羽数（万羽）
採卵鶏	10	79.3
肉用鶏	1	5
肉用種鶏	2	1.3
合計	13	85.6

○野鳥におけるHPAI確認状況（発生5羽以上を抜粋）

	件数	羽数
ハシブトガラス	65	106
オオハクチョウ	17	18
ヒドリガモ	8	8
ナベヅル	5	5
ハシボソガラス	4	8

気温の上昇に伴い、渡り鳥の北への移動も終わりへと近づいています。しかし、4月になっても農場でHPAIが発生しており、野鳥では散発的に留鳥等からHPAIウイルスが検出されています。家きん飼養農家におかれましては引き続き飼養衛生管理基準に基づいた対策と野生動物の侵入防止対策の継続をお願いします。

（東部家保防疫課 古林獣医師）

【海外情報】乳牛に鳥インフルエンザが感染!?

最近、アメリカで高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）ウイルスが乳牛に感染した事例が確認されました。テキサス州やカンザス州など6州15事例で乳量の減少や食欲の低下等を示した乳牛からH5N1亜型のHPAIウイルスが検出されました。発生事例では、まず反芻とルーメン運動の低下を伴う飼料摂取量の急激な減少から始まり、その後群単位で泌乳量が著しく低下するといった症状が確認されており、重症例では初乳のような濃厚な乳汁となる個体や泌乳停止に陥る個体も確認されています。感染経路としては、農場内で死亡野鳥が確認されていることから、野鳥によってウイルスが持ち込まれたものと考えられています。

また、HPAI感染牛と接触した人が同ウイルスに感染（結膜炎症状を示し後に回復）したことも報告されていますが、アメリカ当局によると、今回確認されたHPAIウイルスにはほ乳類への感染性を高めるような遺伝子変異は起こっておらず、ヒトの健康リスクにはほとんど影響がないとの見解です。

現時点では日本国内で牛へのHPAIウイルス感染は報告されていませんが、野鳥や野生動物を介してのウイルス感染防止を図るため、給餌・給水設備や飼料保管場所に野鳥の排せつ物等が混入しないよう対策を講じましょう。

飼養する牛に乳量の減少や食欲低下等の症状がみられた場合は、群から隔離して管理し、診療獣医師または家畜保健衛生所までご相談ください。

（東部家保環境課 宮本課長）

令和6年度市町村畜産担当者名簿

東部家保管内

市町村名	担当課	課長	係長	担当者	備考
富山市	農業水産課	農林水産部参事 余川 洋成	園芸畜産係長 矢郷 徳宏	(同左)	TEL 076-443-2083 FAX 076-443-2185
	農林事務所農業振興課 (大沢野行政サービスセンター)	大杉 将人	副主幹・振興係長 島田 豊	技師 川合 智也	TEL 076-468-2449 FAX 076-467-0684
魚津市	農林水産課	清水 悟史	農産振興係長 浦崎 邦禎	主任 栗林 侑宏 事務職員 片山 和重	TEL 0765-23-1034 FAX 0765-23-1053
滑川市	農林課	産業民生部長 黒川 茂樹	係長 早川 勇	主事 細田 菜々子	TEL 076-475-2111 FAX 076-476-0249
黒部市	農業水産課	橋本 正則	課長補佐 辻 清人	主事 佐々木 亮	TEL 0765-54-2603 FAX 0765-54-2607
	くろべ牧場まきばの風	場長 橋場 和博	主幹 若林 剛史	(同左)	TEL 0765-52-2604 FAX 0765-52-3925
舟橋村	生活環境課	田中 勝	—	主任技師 政二 勇太	TEL 076-464-1121 FAX 076-464-1066
上市町	産業課	酒井 紀明	課長代理 小柴 憲一	係長 村上 淳	TEL 076-472-1111 FAX 076-472-1115
立山町	農林課	佐伯 悦野	農政係長 中西 嘉尊	主事 高田 知拓	TEL 076-462-9973 FAX 076-463-1254
入善町	がんばる農政課	長島 努	係長 柳沢 拓也	(同左)	TEL 0765-72-3812 FAX 0765-74-2108
朝日町	農林水産課	平坂 昌美	主幹 佐渡 譲	主任 中島 祐馬	TEL 0765-83-1100 FAX 0765-83-1109

西部家保管内

市町村名	担当課	課長	係長	担当者	備考
高岡市	農業水産課	割田 一郎	農産・畜産・水産係長 小林 新平	主事 増村 義弘	TEL 0766-20-1321 FAX 0766-20-1476
射水市	農林水産課	野崎 智延	課長補佐 村下 哲也	主事 下條 真太郎	TEL 0766-51-6677 FAX 0766-51-6692
氷見市	農林畜産課	赤倉 哲郎	課長補佐 山下 弥奈江	主任 池田 正樹	TEL 0766-74-8086 FAX 0766-74-1447
砺波市	農業振興課	小西 啓介	農産係長 前田 利数	主査 渡邊 大介	TEL 0763-33-1409 FAX 0763-33-1129
南砺市	農政課	中島 吉範	副主幹・農産振興係長 久保 明子	副主幹 幅田 真佐弘	TEL 0763-23-2016 FAX 0763-52-6348
小矢部市	農林課	高田 泰成	課長補佐 上田 慎一	主事 沼田 庸平	TEL 0766-53-5849 FAX 0766-67-5009
	稲葉山牧野	場長 脊戸 栄	場長補佐 上田 政勝	主任 田中 崇樹	TEL 0766-67-2607 FAX 0766-67-5313

防 疫 情 報

全国の主な家畜伝染病の発生

高病原性鳥インフルエンザ (法定伝染病)

(4月30日現在)

事 例	発生日	発生場所	経営形態	飼養羽数	備 考
11	4月29日	千葉県富里市	採卵鶏	約6.3万羽	

県内の主な家畜伝染性疾病の発生

病 名	畜 種	発生日	戸 数	頭羽数	備 考
牛マンヘミア症	牛	3月27日	1	1	
牛ロタウイルス病	牛	4月8日	1	1	
牛パストツレラ(マンヘミア)症と牛コクシジウム病	牛	4月15日	1	1	
牛パストツレラ症	牛	4月15日	1	3	
牛コロナウイルス病と牛パストツレラ症	牛	4月15日	1	1	
牛大腸菌症	牛	4月22日	1	1	
豚丹毒 (届出伝染病)	豚	4月3日	1	1	と畜場発見
		4月5日	1	1	
山羊の消化管内線虫症	山羊	3月28日	1	1	
		4月10日	1	1	

令和5年(2023)シーズンの野鳥の高病原性鳥インフルエンザウイルス発生状況

(4月30日現在)

事 例	回収日 採取日	場 所	種 名	最終判定
145～154 10事例	3月28日～ 4月22日	北海道：札幌市、平取町、羽幌町 栃木県：那須塩原市 広島県：北広島町	ハシブトガラス ハシボソガラス フクロウ クマタカ	6 検体:H5N1 4 検体:検査中

県内における野生いのししの豚熱 PCR 陽性事例 (令和6年4月以降)

(4月24日現在)

	発見状態	発見又は捕獲日	発見又は捕獲場所	成長区分	性 別
1	捕獲	4月15日	氷見市五十谷地内	成獣	雄

【参考】令和元年7月30日以降の野性いのしし豚熱検査結果 (単位：頭)

区 分	陽 性	陰 性	計
死亡いのしし	23	3	26
捕獲いのしし	85	2,667	2,752
合計	108	2,670	2,778

北陸三県和牛子牛市場の開催

4月25日、金沢市の北陸三県家畜市場において、令和6年度第1回の北陸三県和牛子牛市場が開催されました。今回は全体で去勢127頭、雌73頭の計200頭の取引が成立し、富山県からの出品牛は去勢45頭、雌19頭の計64頭の取引が成立しました。全体の取引頭数は、前回比プラス54頭で36%の増加となりました。

平均価格は、去勢で569千円(2月市場493千円)、雌で502千円(同410千円)、全体では544千円でした。また、最高価格は去勢で786千円、雌が1,214千円でした。

次回の開催は令和6年6月27日(木)になります。

(東部家保防疫課 宮澤副主幹)

発行所 富山県東部家畜保健衛生所
〒939-3536 富山市水橋金尾新4-6
編集者 宮本 剛志 (富山県東部家畜保健衛生所)

http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1687/
電 話 (076) 479-1106 F A X (076) 479-1140